

工事施工に関する特記仕様書

【適用範囲】

本工事の施工にあたって請負者は、契約書に基づき、設計図書に従って施工するものとする。また、設計図書のうち仕様書については、本「特記仕様書」及び「新潟県土木工事標準仕様書」を適用するものとする。

①工事現場の照査及び施工計画書

- ・実施設計書に基づき現場を照査し、その結果を監督員に確認を得るとともに、施工計画書を作成し現地着手前に提出し監督員の確認を得ること。
- ・内容に変更が生じた場合は、速やかに監督員と打合せ・協議を行ない確認を得ること。
- ・必要に応じて詳細な調査を行ない、これらの結果を設計図書の資料とあわせて検討し支障のないよう施工しなければならない。

②交通規制及び地元対策

- ・現地着手にあたり警察等関係機関と十分協議し、交通規制図等を提出し監督員の確認を得ること。
- ・道路使用許可申請書を提出する際は、事前に監督員から内容の確認を得ること。
- ・工事期間中は、地元代表者（町内会長等）と連絡を密にするとともに、作業工程等に変更が生じた場合は、監督員と協議し速やかに地元代表者に連絡すること。
- ・当該工事完了後、地元代表者に報告すること。また、側溝清掃等の必要があれば立会いを求め地元代表者に了解を得ること。
- ・交通規制のかかる工事については、現地着手一週間前までに消防署へ届出すること。

③産業廃棄物受入伝票について（再資源化施設への搬入が必要な場合）

- ・廃材数量確認については、請負者が作成したマニフェストの集計表及び請負者保管のマニフェスト原本を提示し確認を得ること。

④環境対策について

- ・工事の施工に際し、地球の環境保全を図るため環境に配慮するとともに、環境負荷の低減に努めること。
- ・当工事は排出ガス対策型機械の使用を設計計上しているため、工事写真で使用の確認ができるようにすること。（機械の全景、ステッカーの拡大写真）また、低騒音、低振動にも努めること。
- ・上記の仕様の建設機械を使用できない場合は、監督員と協議すること。

⑤品質管理基準について

アスファルト舗装、上層路盤、下層路盤における現場密度測定の試験基準は、別紙「品質管理基準及び規格値」のとおりである。

なお、当該工事は、品質管理基準及び規格値（別紙参照）の（ C ）を適用する。

品質管理基準及び規格値

工 種		規格値		試験基準	適用
下層路盤		最大乾燥密度 (γ_{dmax}) の93%以上 \bar{X}_{10} =95%以上 \bar{X}_6 =96%以上 \bar{X}_3 =97%以上		中規模以上の工事(合材3,000 t以上) ↓ 1,000㎡につき1個	原則10個測定して \bar{X}_{10} で判定 10個が得がたい場合は3個測定して \bar{X}_3 で判定 その3個が規格値をはずれた場合はさらに3個追加測定し、 その6個が \bar{X}_6 規格値を満足すればよい
		最大乾燥密度 (γ_{dmax}) の93%以上 \bar{X}_{10} =95%以上 \bar{X}_6 =95.5%以上 \bar{X}_3 =96.5%以上		小規模以下の工事 (3,000t未満だが施工が数日間連続) ↓ 1,000㎡につき1個 但し、1工事3個以上	
7ス77t舗装		基準密度の94%以上 \bar{X}_{10} =96%以上 \bar{X}_6 =96%以上 \bar{X}_3 =96.5%以上		1,000㎡につき1個 但し、施工がごく少量の場合は監督員と協議	B
路盤		基準密度の93%以上		1,000㎡につき1個 但し、施工がごく少量の場合は監督員と協議	規格値を著しく下回った点が存在した場合は 監督員と協議の上、再転圧を行なうこと
簡易舗装		基準密度の94%以上			

施工条件関係

下記項目、事項のうち〇印欄は、工事施工にあたって制約等をうけることになるので明示する。
 なお、明示事項に変更が生じた場合明示されていない制約等が発生したときは、監督員と協議し、適切な措置をこうするものとする。

明示項目	施 工 条 件
Ⅰ 工程関係	① 関連する別途工事あり 工事名： 中田原練兵場踏切 拡幅工事（えちごトキめき鉄道 ^株 施工） 予定期間： R1.6末～R2.1
	2 施工時期、時間、方法の制限あり 時期： 時間： 方法：
	3 関係機関協議による工程条件あり 協議内容： 完了予定：
	④ その他 今後近接する工事が発注された場合、その工事と工程調整及び施工方法を協議すること。
Ⅱ 用地関係	1 工事用地等の未処理部分あり 処理見込時期： 区間：全区間
	2 仮設ヤードの指定あり 場所： 期間：
	3 その他
Ⅲ 公害対策関係	1 公害防止の制限あり（騒音・振動、排出ガス、粉じん、水質等） 施工方法： 作業時間：
	2 家屋等の調査の必要性あり 方法： 範囲：
	③ その他 別紙「騒音・振動対策に関する特記仕様書」のとおり
Ⅳ 安全対策関係	① 交通安全施設等の指定あり <ul style="list-style-type: none"> ・ 期間：施工期間中 交通誘導員配置 2人/箇所 12.0日間（24.0人日） ・ 期間：鉄道近接作業施工時（No.3からNo.4の間の作業分を計上） 工事管理者 1人/箇所 4.5日間（4.5人日） 列車見張員 2人/箇所 4.5日間（9.0人日） 鉄道近接部の重機作業実施にあたり、列車見張員・工事管理者等の配置が必要となる。 なお、工事管理者については、在来線の資格を有するとともに鉄道に関する技術上の基準を定める省令第10条ならびに列車防護訓練等の係員教育修了者を配置しなければならないものとする。配置人員等については、えちごトキめき鉄道 ^株 と協議によるため、詳細については、監督員と協議のうえ必要人数を変更にて対応する。
	② 近接作業制限あり（ <u>鉄道</u> ガス、水道、電気、電話等） 内容：えちごトキめき鉄道 ^株 妙高はねうまラインに近接。安全対策については、協議が必要。 工法制限： 作業時間制限：

明示項目	施 工 条 件
④ 安全対策関係	3 発破作業あり 保安施設及び保安要員： 防護工： 作業時間制限：
	4 防護施設（落石、雪崩、土砂崩落等） 内容：
	⑤ その他 交通誘導員については、警察等関係機関との協議により交通処理方法等の変更が生じた場合や現地の状況により、これによりがたい場合は監督員と協議すること。
V 工事用道路関係	1 一般道を搬入路としての制限あり 搬入経路： 期間： 使用後の措置：
	2 一般道路の占用 期間： 規制条件： 時間制限：
	3 仮設道路設置 工法指定の有無： 用地関係： 安全施設： 工事完了後の「存置」または「撤去」：
	4 その他
⑥ 仮設備関係	1 仮設備の構造及び施工方法の指定あり 内容：
	② 仮設備の設計条件指定あり 内容：本設計で排水工施工時に水替設備を計上している、地元協議や自然条件によって設備に変更を必要とする場合は、監督員と協議して施工するものとする。 また、水替え時の排水先については下流域への影響が無い箇所を選択し、監督員の了解を得てから施工するものとする。
	3 仮設備の転用、兼用あり 工種： 内容：
	4 イメージアップあり 内容：
	5 その他
⑦ 残土・産業廃棄物関係	別紙「特記仕様書 建設副産物関係」のとおり

明示項目	施 工 条 件
Ⅷ 工事支障 物件等	1 占有支障物件あり（電気、電話、水道、ガス等） 内容：
	2 占有物件重複施工あり 内容：
	③ その他 掘削作業、及び地中に影響を伴う工事に着手する前には必ずガス・水道局、埋設物管理者の立会いを受けること。
Ⅸ 排水工 （濁水処理含む）	1 濁水、湧水処理の特別な対策あり 内容：
X 薬液注入関係	1 薬液注入工法あり
① その他	1 現場発生材あり
	2 支給品および貸与品あり 品名： 引渡し場所：
	3 品質証明の対象工事である 標準仕様書第1編（章）1-1-24による
	④ その他 工事中、沿線住民等から苦情または意見等があった時は丁寧に対応し、ただちに監督員に報告すること。

排ガス対策型建設機械関係

本工事において以下に示す施工機械を使用する場合は排出ガス対策型建設機械指定要綱に基づき指定された建設機械を使用するものとする。

なお、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設省技術評価制度公募課題技術の技術審査・証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用することで、排出ガス対策建設機械と同等とみなすものとする。ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。

排出ガス対策型建設機械あるいは、排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い提出するものとする。なお、指定機械であることを識別するラベルが添付されているので、確認できるように撮影すること。

機 種	備 考
バックホウ トラクタショベル（車輪式） ブルトーザ 発電発電機（可搬式） 空気圧縮機（可搬式） 油圧ユニット類 以下に示す基礎用機械のうち、ベースマシンまたは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載するもの。 〔油圧ハンマ・パイプロハンマ・油圧式鋼管圧入引抜機 油圧式杭圧入引抜機・アースオーガ・オールケーシング掘削機械・リバースサーキュレーションドリル・アースドリル・地下連続壁施工機・全回転型オールケーシング掘削機〕 ローラ類（ロードローラ・タイヤローラ・振動ローラ） ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kW以上260kW以下）を搭載した建設機械を対象とする。

材料指定関係

参考資料の仮設工における数量・材料名・材料規格は、他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考資料であるので、指定とはならない。

請負工事指定事項総括表

(A):指定 (B):一部指定 (C):任意

項 目	指 定 事 項		備 考
	当 初	変 更	
工 法 の 指 定			
仮設工事の指定	1.水替工 (C)		
施工の立会検査 又は記録の整備	1.新潟県土木工事標準仕様書		
部分払の対象と しない事項			
施工条件の基準	1.特記仕様書 2.新潟県土木工事標準仕様書		
そ の 他	1.産業廃棄物は「廃棄物の処理に関する法律」 によって適正に処理すること。		

騒音・振動対策に関する特記仕様書

1. 目的

本仕様書は建設工事に伴う、騒音、振動の発生をできる限り、防止することにより、生活環境の保全と円滑な工事の施工を図ることを目的とする。

2. 適用

本工事箇所は、騒音、振動を防止することにより、住民の生活環境を保全する必要があると認められる区域に該当するので、施工計画書で騒音、振動対策を明記すること。

3. 遵守する法令

騒音、振動対策の施工にあたっては、騒音規制法、振動規制法及び新潟県生活環境の保全等に関する条例等を十分理解しておくこと。

4. 対策の主な基本事項

1) 騒音、振動対策については、騒音、振動の大きさを下げるほか、発生期間を短縮するなど全体的に影響の小さくなるように次の事項について検討すること。

- (1) 低騒音、低振動の施工法の選択
- (2) 低騒音型建設機械の選択
- (3) 作業時間帯、作業方法の設定
- (4) 騒音、振動源となる建設機械、設備の配置

2) 建設機械の運転については以下に示す配慮をすること。

- (1) 現場管理等に留意し、不必要な騒音、振動を発生させない。
- (2) 建設機械等は、整備不良による騒音、振動が発生しないように点検、整備を行う。
- (3) 作業待ち時には、建設機械等のエンジンをできる限り止め、不必要な騒音、振動を発生させない。

5. 対策の具体的事項

1) 土工（掘削、積込み作業）

- (1) 掘削、積込み及び締固め作業は、低騒音型建設機械の使用を原則とする。
- (2) 掘削（舗装版等）は衝撃力による施工を避け、無理な負荷をかけないように丁寧に運転する。

2) 土留工・構造物取り壊し工は、騒音、振動に関して苦情の多い工種であるので、十分配慮する。特に取り壊しにおいて、小割を必要とする場合は騒音、振動の影響の少ない場所で小割する方法を検討する。

3) 覆工板（路面覆工）の取り付けでは、段差、通行車両による、がたつき、跳ね上がり等による安全対策はもちろん、騒音、振動の防止にも留意する。

4) 空気圧縮機・発動発電機は低騒音型建設機械の使用を原則とする。

6. 特定建設作業の届出

現場代理人は特定建設作業の届出をする場合、騒音規制、振動規制法の14条第1項の規定により、特定建設作業開始の日の7日前までに届出した「特定建設作業実施届出書」の写しを監督員に速やかに提出すること。

特定建設作業の種類および規制基準

特定建設作業の種類		騒音・振動の大きさ	作業時間帯	作業禁止	実施届出
騒音関係	くい打機（もんけんを除く）、くい抜機又はくい打くい抜機（圧入式くい打くい抜機を除く）を使用する作業（くい打機をアースオーガーと併用する作業、セメントミルク工法を除く）	85dB	上越市では8:00～17:00を作業時間帯として指導している。	日曜日及びその他の休日	7日前までに届出
	びょう打機を使用する作業				
	さく岩機を使用する作業（連続的に移動する作業にあっては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る）ハンドブレイカー（空気圧、電動）、油圧式、打撃のみを行うブレイカーも該当。				
	空気圧縮機（電動機以外の原動機を用いるものであって、原動機の定格出力が15kw以上のものに限る）を使用する作業（さく岩機の動力源として使用する作業を除く）				
	コンクリートプラント（混練機の混練容量が0.45m ³ 以上のものに限る）又はアスファルトプラント（混練機の混練重量が200kg以上のものに限る）を設けて行う作業				
	バックホウ（低騒音型として環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が80kw以上のものに限る）を使用する作業				
	トラクターショベル（低騒音型として環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が70kw以上のものに限る）を使用する作業				
	ブルドーザー（低騒音型として環境大臣が指定するものを除き、原動機の定格出力が40kw以上のものに限る）を使用する作業				
コンクリートカッターを使用する作業（連続的に移動する作業にあっては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る）				不要	
振動関係	くい打機、くい抜機又はくい打くい抜機を使用する作業（もんけん、圧入式くい打くい抜機及びセメントミルク工法を除く。振動パイルドライバ、パイプロハンマーは該当。くい打機をアースオーガーと併用する作業も該当）	75dB	同上	同上	7日前までに届出
	鋼球を使用して建築物その他の工作物を破壊する作業				
	舗装版破碎機を使用する作業				
	ブレイカー（手持式のもの除く）を使用する作業（連続的に移動する作業にあっては、1日における当該作業に係る2地点間の最大距離が50mを超えない作業に限る）				
<ul style="list-style-type: none"> ・騒音の大きさは、作業の場所の敷地の境界線における値。 ・振動の大きさは、作業の場所の敷地の境界線における値。 					

再生クラッシャーラン・アスファルト再生クラッシャーラン特記仕様書

建設工事に伴い発生する建設廃材を破碎または混合して製造する再生クラッシャーラン・アスファルト再生クラッシャーラン（以下「再生クラッシャーラン等」という。）の性状について、次のとおり規定する。

なお、再生クラッシャーランを構造物の基礎材等として使用する場合についてもこの定めによる。

1 材料

1-1

①再生クラッシャーラン（RC-40）

セメントコンクリート廃材から製造した再生骨材および路盤再生骨材（路盤発生材を必要に応じて破碎、分級して製造した骨材）を単独または相互に組み合わせ、必要に応じてこれに補足材を加えて、所要の品質が得られるように調整した材料をいう。

②アスファルト再生クラッシャーラン（ARC-40）

再生クラッシャーラン（RC-40）もしくはクラッシャーラン（C-40）を母材とし、グリスリアンダー材を混合したものをいう。アスファルト再生クラッシャーランには、再生クラッシャーラン（RC-40）を母材とする「RC混合」とクラッシャーラン（C-40）を母材とする「C混合」がある。

1-2

再生クラッシャーラン等は、ゴミ、泥、有機物、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器、レンガ、瓦等を有害量含んではならない。

1-3

再生クラッシャーラン等の最大粒径については、最大40mmと定める。

2. 品質

再生クラッシャーラン等の品質規格ならびに品質管理については、新材のクラッシャーランに準じるものとする。

2-1（品質）

路盤材に使用する再生クラッシャーラン等の修正CBR、塑性指数、グリスリアンダー材の混入率は次表を標準とし、舗装の構造設計に用いる等値換算係数（下層路盤）は0.25とする。

材 料	修正CBR	PI (塑性指数)	グリスリアンダー材 の混入率
再生クラッシャーラン	30%以上	6以下	—
アスファルト再生クラッシャーラン	40%以上	6以下	質量配合40%以下

〔注〕

(1) 再生クラッシャーラン等に用いるセメントコンクリート再生骨材は、すりへり減量が50%以下でなければならない。試験方法はロサンゼルスすりへり減量試験〔粒度は道路用碎石S-13(13~5mm)のもの〕とする。

(2) 再生クラッシャーラン等の材料として路盤再生骨材もしくは路盤発生材を用いる場合のみPIの規定を適用する。

2-2（粒度範囲）

再生クラッシャーラン等の粒度は〔JIS A 5001〕道路用碎石の規定に準じ、粒度範囲は次表による。

粒度の範囲(mm)		RC-40 (40~0)	ARC-40 (40~0)
ふるい目(mm)	53.00	100	100
	37.50	95~100	95~100
	31.50	—	—
	26.50	—	—
	19.00	50~80	50~80
	13.20	—	—
	4.75	15~40	15~40
	2.36	5~25	5~25
通過質量百分率(%)			

〔注〕 粒度は、モルタル粒などを含んだ解砕されたままの見かけの骨材粒度を使用する。

建設副産物関係

1. 再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再生資材名	規 格	使用箇所	備 考
再生砕石	RC-40	基礎	
As再生砕石	ARC-40	路盤	

2. 建設発生土の利用

(1)盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発注機関	工事名	発生場所	施工会社名・連絡先	備 考

(2)改良土の利用

発生土の搬出（埋戻し土量相当分）、改良土の搬入は、下記の施設を利用するものとする。

中間処理施設	施設所在地	規 格	使用箇所	受入・改良土費用

3. 建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土処理は、下記により積算している。

※運搬距離に変更が生じた場合は、監督員と協議することとする。

搬出先			
搬出先地名			
連絡先			
設計運搬距離	L=5.5km		
受入時間			
設計受入費用	受入先での整地必要		
仮置場の有無			
備 考			

建設発生土改良土プラントへ土砂を運搬処理する場合、上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と請負者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

4. 建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記により積算している。

搬出する廃棄物名	アスファルト殻	コンクリート殻（無筋）	
設計運搬距離	L=5.5km	L=5.0km	
受入時間			
設計受入費用	1700円/t	2300円/t	
備 考			

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、発注者が想定している施設と請負者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

5. 再生資源利用計画書の必要の有無

（ 有り ）

※竣工時には出来高数量を記入した実施書も含めCDで提出のこと

6. 再生資源利用促進計画書の必要の有無

（ 有り ）

※竣工時には出来高数量を記入した実施書も含めCDで提出のこと

7. 特定建設資材廃棄物の処理について

当該工事は建設リサイクル法対象工事であり、特定建設資材廃棄物（コンクリート・アスファルト・木材）は同法に基づき適正に処理し、資材の再資源化に努めること。

なお、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

8. 自ら産業廃棄物を運搬・処分する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

9. 廃材数量確認については、請負者が作成したマニフェストの集計表及び請負者保管のマニフェスト原本を提示し確認を得ること。

10. 協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定によりがたい場合は、速やかに発注者に報告し、協議すること。

上越市発注建設工事における市内下請及び資材発注について

第1 下請発注について

請負者は、本建設工事の施工に当たり、工事の一部を下請企業に請け負わせて施工しようとする場合には、下請企業を上越市内企業の中から選定するよう努めるものとする。

第2 建設資材発注について

請負者は、本建設工事の施工に当たり、建設資材を発注しようとする場合には、納入企業を上越市内企業の中から選定するよう努めなければならない。
また、上越市産資材がある場合には、他に優先して使用するよう努めるものとする。

数量総括表

名 称	実 施 元 設 計	変 更 設 計
仮設工における、規格数量は他の設計図書に明示されていない限り積算のための参考数量である。		
土工		
掘削	別紙No.1より 36.4	40 m ³
床堀	別紙No.1より 40.4	40 m ³
埋戻し	別紙No.1より 28.0	30 m ³
残土運搬処分	別紙No.1より 45.7	50 m ²
排水構造物工		
L型側溝	別紙No.11より 34.0+8.0+8.8=	50.8 51 m
自由勾配側溝 300×300	別紙No.11より 3.1	3 m
自由勾配側溝 300×400	別紙No.11より 18.0	18 m
自由勾配側溝 300×500	別紙No.11より 2.8	3 m
自由勾配側溝 300×600	別紙No.11より 2.3	2 m
調整コンクリート	別紙No.11より 1.021×1.06=	1.08 1 m ³
コンクリート蓋	別紙No.11より 23	23 枚
グレーチング蓋	別紙No.11より 2	2 枚
VU300	別紙No.11より 0.8	1 m
ボックスカルバート 1000×1300	別紙No.11より 1.3	1 m
集水樹 M1-500×500×600	別紙No.11より 1	1 基
集水樹 M1-500×500×1200	別紙No.11より 1	1 基
集水樹 M3-300×500×500	別紙No.11より 1	1 基
構造物撤去工		
舗装版切断	別紙No.37より 2+77=	79.0 79 m
舗装版破砕	別紙No.37より 31+211=	242.0 240 m ²
舗装版運搬	別紙No.37より 31×0.04+211×0.05=	11.8 12 m ³
舗装版処分	上記より 11.8×2.35=	27.7 28 t
構造物取壊し・運搬・処分 無筋	別紙No.37より 4.9+1.1+2.6+0.8=	9.4 9 m ³
舗装工		
下層路盤工(車道) ARC-40 t=12cm	別紙No.4より 73.3	73 m ²
上層路盤工(車道) M-40 t=12cm	別紙No.4より 73.3	73 m ²
不陸整正(車道) M-25 t=3cm	別紙No.4より 113.2	113 m ²
表層工(車道) ⑤密粒度As(新20FH) t=5cm	別紙No.4より 186.5	187 m ²
フィルター層(歩道) 砂 t=15cm	別紙No.4より 95.0	95 m ²
路盤工 C-40 t=15cm	別紙No.4より 95.0	95 m ²
表層工(歩道) ⑤開粒度As(13) t=4cm	別紙No.4より 95.0	95 m ²

土工量計算書

NO.1

測点		单距離 m	機械掘削				摘要		測点	单距離 m	面積 m ²	平均面積 m ²	体積 m ³	面積 m ²	平均面積 m ²	体積 m ³	摘要
No.	2																
+	6.0		0.8														
No.	2	6.0		0.95		5.7											
+	12.0		1.1			8.0											
No.	3	8.0		1.00													
+	0.0		0.9			6.4											
No.	3	7.1		0.90													
+	7.1		0.9														
No.	3																
+	12.9		2.3			16.3											
No.	4	7.1		2.30													
+	0.0		2.3														
No.	4	8.8		0.0													
+	8.8		0.0														
合計						36.4											

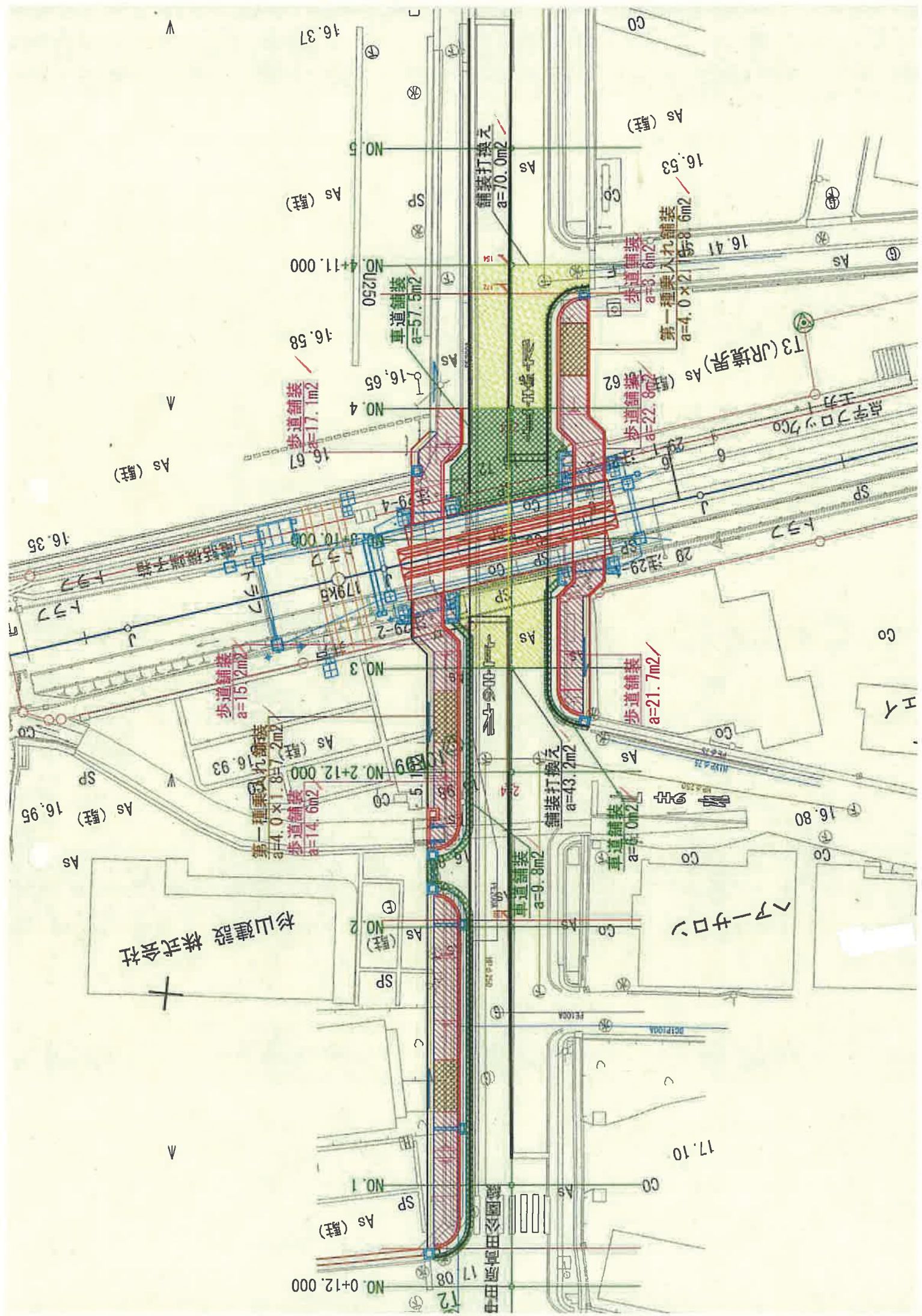
土工量計算書

NO.2

床掘り				埋戻し							
測点	単距離 m	面積 m ²	平均面積 m ²	体積 m ³	摘要	測点	単距離 m	面積 m ²	平均面積 m ²	体積 m ³	摘要
No. 2 + 6.0		1.0				No. 2 + 6.0		0.3			
No. 2 + 12.0	6.0	1.1	1.05	6.3		No. 2 + 12.0	6.0	0.6	0.45	2.7	
No. 3 + 0.0	8.0	1.0	1.05	8.4		No. 3 + 0.0	8.0	0.6	0.60	4.8	
No. 3 + 7.1	7.1	1.0	1.00	7.1		No. 3 + 7.1	7.1	0.6	0.60	4.3	
No. 3 + 12.9		0.0				No. 3 + 12.9		0.0			
No. 4 + 0.0	7.1	0.0	0.00	0.0		No. 4 + 0.0	7.1	0.0	0.00	0.0	
No. 4 + 8.8	8.8	0.0	0.00	0.0		No. 4 + 8.8	8.8	0.0	0.00	0.0	
合計				21.8		合計				11.8	

杉山建設 株式会社

アール・サロ



車道面積

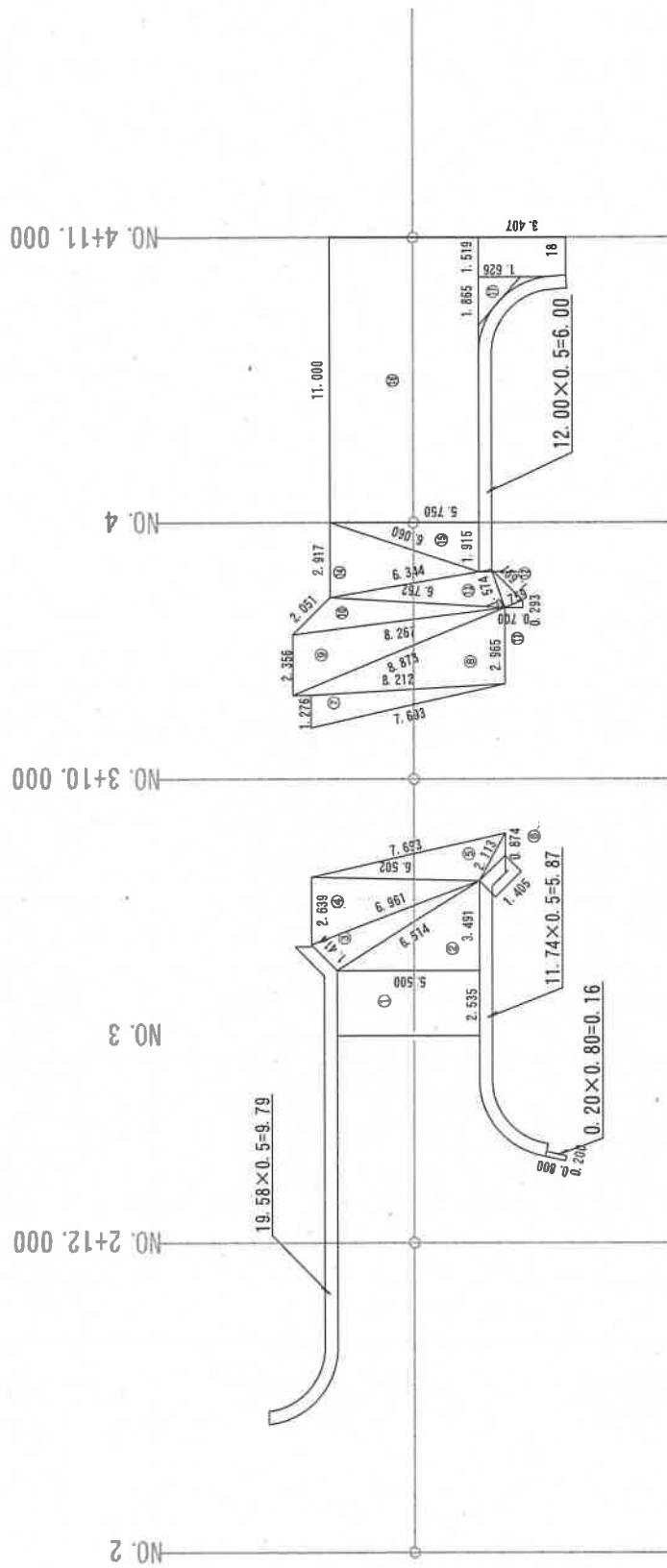
車道舗装

①	2.535 × 5.500 =			13.94
②	5.500	3.491	6.514	9.60
③	6.514	1.414	6.961	4.49
④	6.961	2.639	6.502	8.58
⑤	6.502	2.113	7.693	6.12
⑥	2.113	1.405	0.874	0.44
合計				43.17

⑦	1.276	7.693	8.212	4.62
⑧	8.212	2.965	8.878	12.16
⑨	8.878	2.356	8.267	9.66
⑩	8.267	2.051	6.762	5.19
⑪	0.700	0.293	0.759	0.10
⑫	0.759	1.697	1.574	0.60
⑬	1.574	6.762	6.344	4.94
⑭	6.344	2.917	6.060	8.75
⑮	6.060	1.915	5.750	5.51
路肩				6
合計				57.53

⑯	5.750 × 11.000 =			63.25
⑰	1.626 × 1.865 / 2 =			1.52
⑱	3.407 × 1.519 =			5.18
合計				69.95

車道面積傍面図



歩道舗装

左

	計算式	面積 (m ²)
①	$0.200 \times 0.281 =$	0.06
②	$2.100 \times 2.100 \times \pi / 4 =$	3.46
③	$2.100 \times 0.314 =$	0.66
④	$1.400 \times 0.900 =$	1.26
⑤	$1.800 \times 5.102 =$	9.18
合計		14.62

⑥	$(3.000+3.746) \times 1.800/2 =$	6.07
⑦	1.697	3.034
⑧	3.034	1.697
⑨	0.891	2.150
⑩	$(2.124+2.616) \times 2.150/2 =$	5.10
合計		15.19

⑪	$(3.680+3.188) \times 2.150/2 =$	7.11
⑫	$(0.800+1.054) \times 1.500/2 =$	1.39
⑬	1.521	1.818
⑭	1.818	1.000
⑮	1.948	3.325
⑯	3.325	2.094
⑰	$(1.851+2.627) \times 1.749/2 =$	3.92
合計		17.09

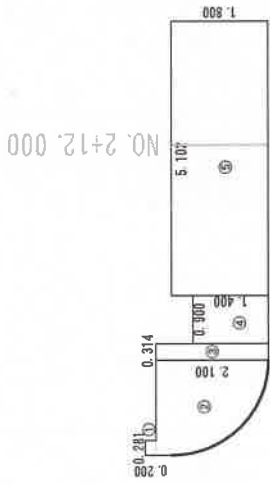
右

	計算式	面積 (m ²)
①	$1.800 \times 1.800 \times \pi / 4 =$	2.54
②	$(7.227+7.259) \times 1.800/2 =$	13.04
③	1.693	2.088
④	1.463	1.782
⑤	2.152	2.561
⑥	2.561	1.882
合計		21.72

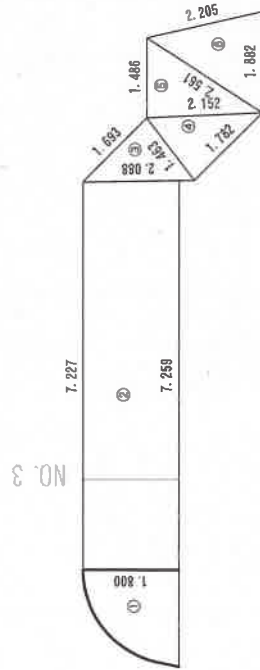
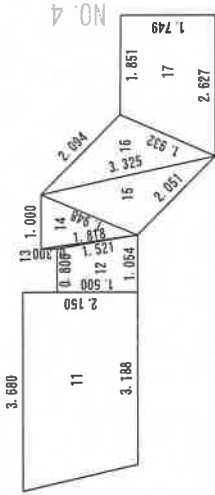
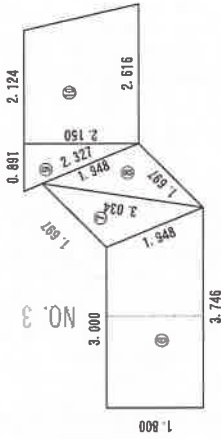
⑧	3.228	2.205	3.480	3.47
⑨	3.480	3.627	2.327	3.90
⑩	2.327	1.697	3.364	5.82
⑪	3.364	1.697	2.327	1.82
⑫	$(4.045+3.155) \times 2.150/2 =$			7.74
合計				22.75

⑬	$2.150 \times 2.150 \times \pi / 4 =$	3.63
---	---------------------------------------	------

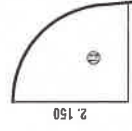
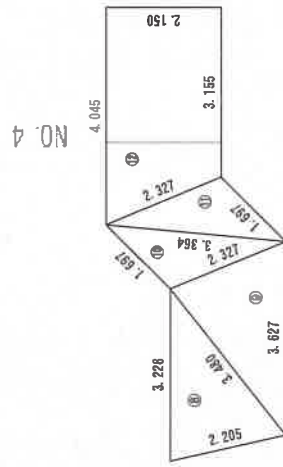
步道舗装傍面図



左



右



排水施設工数量集計表

種 別	細 別	規 格	単 位	数 量	備 考
側溝工					
	L型側溝	PL4-B500×H200×T200	m	34.0	
		乗入れ部	m	8.0	
		横断歩道部	m	8.8	
	自由勾配側溝	B300×H300	m	3.1	3.13
		B300×H400	m	18.0	8.60+9.36
		B300×H500	m	2.8	2.79
		B300×H600	m	2.3	2.31
	調整コンクリート		m ³	1.021	0.579+0.047+0.395
	コンクリート蓋		枚	23	11+3+9
	グレーチング蓋		枚	2	2
集水樹工					
	集水樹(グレーチング蓋)	M1-500×500×600	基	1	
		M1-500×500×1200	基	1	
		M3-300×500×500	基	1	
暗渠工					
	塩ビ管	VUφ300	m	0.8	
	ボックスカルバート	B1000×H1300	m	1.3	継足し

排水施設工 数量調書

名称： L型側溝 (PL4-B500×H200×T200)					単位： m
測 点	左右	数 量	摘 要		
No. 2+ 8.0 ~ No. 2+ 14.3	左	6.3			
No. 2+ 18.3 ~ No. 3+ 3.5	左	5.7			
No. 3+ 13.3 ~ No. 4+ 0.0	左	7.3			
No. 2+ 18.3 ~ No. 3+ 6.4	右	8.4			
No. 3+ 16.7 ~ No. 4+ 2.5	右	6.3			
合 計		34.0			

排水施設工 数量調書

名称： L型側溝 (乗入れ)					単位： m
測 点	左右	数 量	摘 要		
No. 2+ 14.3 ~ No. 2+ 18.3	左	4.0			
No. 4+ 2.5 ~ No. 4+ 6.5	右	4.0			
合 計		8.0			

排水施設工 数量調書

名称： L型側溝(横断歩道部)				単位： m	
測	点	左右	数 量	摘 要	
No. 2+	6.0 ~ No. 2+	左	3.1		
No. 2+	16.3 ~ No. 2+	右	2.9		
No. 4+	6.5 ~ No. 4+	右	2.8		
合 計			8.8		

排水施設工 数量調書

名称： 自由勾配側溝				単位： m	
測	点	左右	数 量	摘 要	
No. 2+	9.2 ~ No. 3+	左	13.7	B300×H400~H600	
No. 3+	15.7 ~ No. 3+	左	3.1	B300×H300	
No. 2+	16.2 ~ No. 3+	右	9.4	B300×H400	
合 計			26.2		

排水施設工 数量調書

名称： 集水桝 M1-500×500×600 /			単位： 基
測 点	左右	数 量	摘 要
No. 3 + 15.3	左	1	
合 計		1	

排水施設工 数量調書

名称： 集水桝 M1-500×500×1200 /			単位： 基
測 点	左右	数 量	摘 要
No. 2 + 8.7	左	1	
合 計		1	

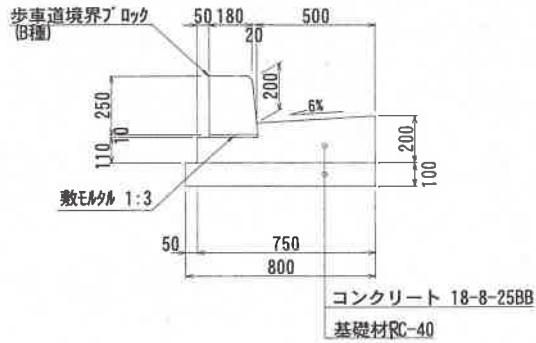
排水施設工 数量調書

名称： 集水桝 M3-300×500×500 /			単位： 基
測 点	左右	数 量	摘 要
No. 4 + 8.7	右	1	
合 計		1	

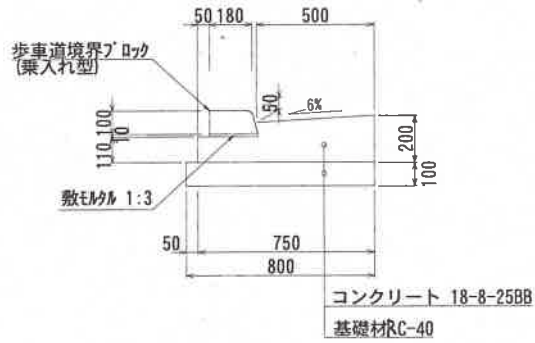
L型側溝 (PL4-500×200×
200)

(10.0m 当たり) 数量計算書

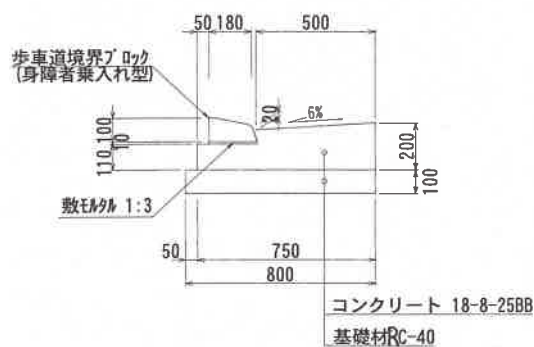
L型側溝 S=1:20
(PL4-B500×H200×T200)



名称	規格寸法	算式	数量	単位
基礎クラッシャー	RC-40	新潟県土木部標準設計より	8.0	m ²
基礎コンクリート	18-8-25	"	1.20	m ³
基礎コン型枠	無筋構造物	"	3.1	m ²
境界ブロック	B種	"	16.5	個
作業土工				
	床掘り	道路土工に含む	—	m ³
	埋戻し	"	—	m ³
	残土処理	"	—	m ³

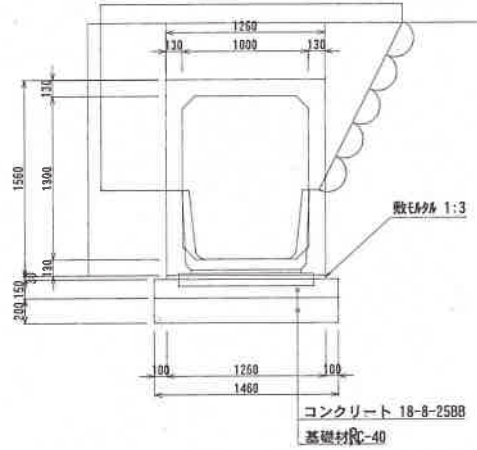
L型側溝 S=1:20
(乗入れ部)

名称	規格寸法	算式	数量	単位
基礎クラッシャーラン	RC-40	新潟県土木部標準設計より	8.0	m ²
基礎コンクリート	18-8-25	"	1.20	m ³
基礎コン型枠	無筋構造物	"	3.1	m ²
境界ブロック	乗入れ型	"	16.5	個
作業土工				
	床掘り	道路土工に含む	—	m ³
	埋戻し	"	—	m ³
	残土処理	"	—	m ³

L型側溝 S=1:20
(横断歩道部)

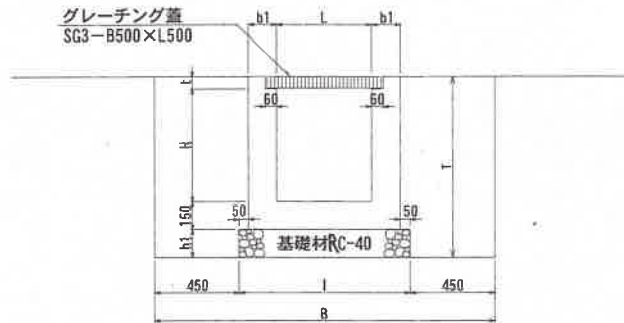
名称	規格寸法	算式	数量	単位
基礎クラッシャーラン	RC-40	新潟県土木部標準設計より	8.0	m ²
基礎コンクリート	18-8-25	"	1.20	m ³
基礎コン型枠	無筋構造物	"	3.1	m ²
境界ブロック	身障者乗入れ型	"	16.5	個
作業土工				
	床掘り	道路土工を含む	—	m ³
	埋戻し	"	—	m ³
	残土処理	"	—	m ³

ボックスカルバート S=1:30
(B1000×H1300)



名称	規格寸法	算式	数量	単位
基礎クラッシャーラン	RC-40	1.46×10.0	14.6	m ²
コンクリート	18-8-25	1.46×0.15×10.0	2.19	m ³
型枠	基礎コン型枠	(0.15+0.15)×10.0	3.0	m ²
敷モルタル	T-25	1.26×0.03×10.0	0.38	m ³
ボックスカルバート	1000×1300	10.0÷2.0	5	個
作業土工				
	床掘り	別途計上	0.9	m ³
	埋戻し	"	0.2	m ³
	残土処理	"	0.7	m ³

M1-B500×L500×H S=1:20



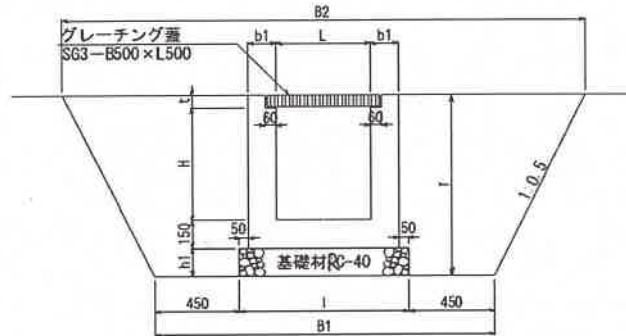
寸法表

新潟県土木部標準設計図集より

集水桝名称	桝内寸法 (mm)		寸法表 (単位mm)						備考
	B	L	H	b1	b2	l	h1	t	
B500 × L500 × H600	500	500	600	150	900	900	150	65	
× H700			700						
× H1000			1000						
× H1200			1200						200

名称	規格寸法	算式	数量	単位
基礎クラッシャーレン	RC-40	新潟県土木部標準設計より	0.81	m ²
コンクリート	18-8-25	〃	0.31	m ³
型枠	小型(Ⅱ)	〃	3.7	m ²
グレーチング蓋	T-25	〃	1	枚
作業土工				
	床掘り	1.8×1.8×0.965	3.1	m ³
	埋戻し	3.1-0.6	2.5	m ³
	残土処理	0.9×0.9×0.15+0.8×0.8×0.815	0.6	m ³

M1-B500×L500×H S=1:20



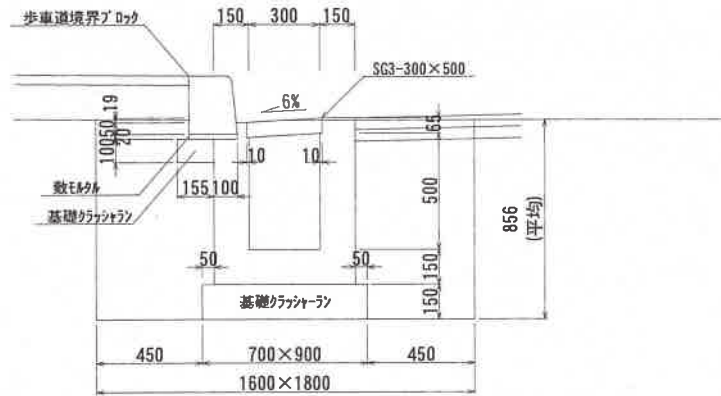
寸法表

新潟県土木部標準設計図集より

集水枿名称	枿内寸法(mm)		寸法表(単位mm)						備考
	B	L	H	b1	b2	l	h1	t	
B500 × L500 × H600	500	500	600	150	900	900	150	65	
× H700			700						
× H1000			1000						
× H1200			1200						200

名称	規格寸法	算式	数量	単位
基礎クラッシュラン	RC-40	新潟県土木部標準設計より	1.00	m ²
コンクリート	18-8-25	〃	0.77	m ³
型枠	小型(Ⅱ)	〃	7.4	m ²
グレーチング蓋	T-25	〃	1	枚
作業土工				
	床掘り	$1/2 (1.8^2 \times 3.515^2) \times 1.615$	12.9	m ³
	埋戻し	12.9 - 1.3	11.6	m ³
	残土処理	$1.0 \times 1.0 \times 0.2 + 0.9 \times 0.9 \times 1.415$	1.3	m ³

M3-B300×L500×H500 S=1:20



名称	規格寸法	算式	数量	単位
基礎クラッシュレン	RC-40	新潟県土木部標準設計より	0.63	m ²
コンクリート	18-8-25	"	0.23	m ³
型枠	小型(Ⅱ)	"	2.7	m ²
グレーチング蓋	T-25	"	1	枚
作業土工				
	床掘り	1.6×1.8×0.856	2.5	m ³
	埋戻し	2.5-0.4	2.1	m ³
	残土処理	0.7×0.9×0.15+0.6×0.8×0.706	0.4	m ³

NO. 2+9. 19~NO. 3+2. 39 (左) 自由勾配側溝 300×400~600

(1カ所 当たり) 数量計算書

名称	規格寸法	算式	数量	単位
側溝延長			13.70	m
		300×400) 展開図より = 8.60		
		300×500) 展開図より 0.79 + 2.00 = 2.79		
		300×600) 展開図より = 2.31		
		Σ = 13.70		
調整コンクリート	18-8-25	別途計算書より	0.579	m ³
グレーチング蓋	歩道用	10mにつき 1枚設置 13.70÷10.0	2	枚
コンクリート蓋	歩道用	10mにつき 8枚設置 13.70×8枚/10m	11	枚
作業土工				
	床掘り	道路土工に含む	-	m ³
	埋戻し	"	-	m ³
	残土処理	"	-	m ³

NO. 3+15. 67~NO. 3+18. 20 (左) 自由勾配側溝 300×300

(1カ所 当たり) 数量計算書

名称	規格寸法	算式	数量	単位
側溝延長			3.13	m
		300×300) 展開図より = 3.13		
		Σ = 3.13		
調整コンクリート	18-8-25	別途計算書より	0.047	m ³
グレーチング蓋	歩道用	10mにつき 1枚設置	-	枚
コンクリート蓋	歩道用	10mにつき 10枚設置 3.13×10枚/10m	3	枚
作業土工				
	床掘り	道路土工に含む	-	m ³
	埋戻し	"	-	m ³
	残土処理	"	-	m ³

NO. 2+16. 20~NO. 3+5. 56 (右) 自由勾配側溝 300×400

(1カ所 当たり) 数量計算書

名称	規格寸法	算式	数量	単位
側溝延長			9.36	m
		300×400) 展開図より = 9.36		
		Σ = 9.36		
調整コンクリート	18-8-25	別途計算書より	0.395	m ³
グレーチング蓋	歩道用	10mにつき 1枚設置	—	枚
コンクリート蓋	歩道用	10mにつき 10枚設置 9.36×10枚/10m	9	枚
作業土工				
	床掘り	道路土工に含む	—	m ³
	埋戻し	”	—	m ³
	残土処理	”	—	m ³

調整コンクリート量計算書

NO.1

測点		自由勾配側溝 300×400~600 (NO.2+9.19~NO.3+2.39) 左側				自由勾配側溝 300×300 (NO.3+15.67~NO.3+18.20) 左側							
測点	単距離 m	調整コンクリート厚 m	平均厚 m	水路巾 m	体積 m ³	摘要	測点	単距離 m	調整コンクリート厚 m	平均厚 m	水路巾 m	体積 m ³	摘要
No. + 9.19	2	0.111					No. + 15.67	3	0.050				
No. + 9.98	2	0.076	0.094	0.300	0.022		No. + 16.77	3	0.050	0.050	0.300	0.017	
No. + 9.98	2	0.176					No. + 18.20	3	0.050	0.050	0.300	0.030	
No. + 10.98	2	0.131	0.154	0.300	0.046								
No. + 11.29	2	0.133	0.132	0.300	0.012								
No. + 12.29	2	0.192	0.163	0.300	0.049								
No. + 12.29	2	0.092											
No. + 14.29	2	0.210	0.151	0.300	0.091								
No. + 14.29	2	0.110											
No. + 18.29	2	0.150	0.130	0.300	0.156								
No. + 0.00	3	0.146	0.148	0.300	0.076								
No. + 1.19	3	0.143	0.145	0.300	0.052								
No. + 2.39	3	0.150	0.147	0.300	0.075								
合計					0.579		合計					0.047	
									2.03				

調整コンクリート量計算書

NO.2

測点		単距離	調整コンクリート厚	平均厚	水路巾	体積	摘要	測点	単距離	調整コンクリート厚	平均厚	水路巾	体積	摘要	
		m	m	m	m	m ³			m	m	m	m	m ³		
No.	2		0.150												
+	16.20			0.142	0.300	0.089									
No.	2	2.10	0.133												
+	18.30			0.134	0.300	0.068									
No.	3	1.70	0.134												
+	0.00			0.135	0.300	0.053									
No.	3	1.30	0.135												
+	1.30			0.136	0.300	0.008									
No.	3	0.20	0.136												
+	1.50			0.142	0.300	0.107									
No.	3	2.50	0.147												
+	4.00			0.149	0.300	0.070									
No.	3	1.56	0.150												
+	5.56														
合計		7.26				0.395									

区画線工 数量調書

名称： W=15cm(中心線)					単位： m
測	点	左右	数 量	摘 要	
No. 1+	2.1 ~ No. 3+		41.9		
No. 3+	16.0 ~ No. 5+		34.0		
合 計			75.9		

区画線工 数量調書

名称： W=15cm(外側線)					単位： m
測	点	左右	数 量	摘 要	
No. 0+	14.3 ~ No. 3+	左	51.2	CADにより算出	
No. 3+	13.5 ~ No. 5+	左	36.5		
No. 2+	15.4 ~ No. 3+	右	13.6	CADにより算出	
No. 3+	14.9 ~ No. 4+	右	16.5	CADにより算出	
合 計			117.8		

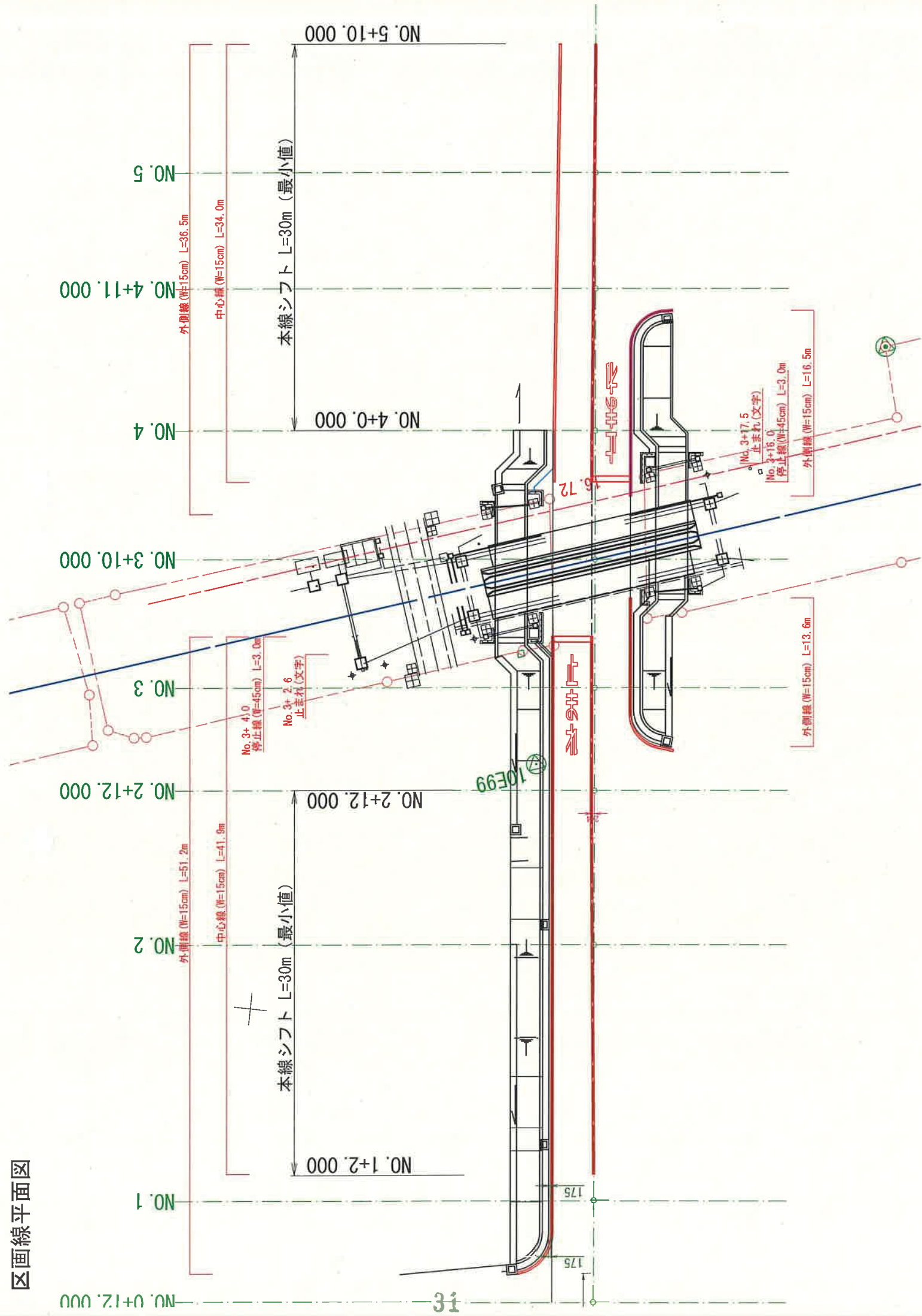
区画線工 数量調書


名称： W=45cm(停止線)			単位： m	
測	点	左右	数 量	摘 要
No.	3 + 4.0	左	3.0	
No.	3 + 16.0	右	3.0	
合 計			6.0	

区画線工 数量調書

名称： W=15cm換算(文字)			単位： 箇所	
測	点	左右	数 量	摘 要
No.	3 + 2.6	左	1.0	止まれ
No.	3 + 17.5	右	1.0	止まれ
合 計			2.0	

区画線平面図



種 別	塗装色	面 積 (S) m^2	幅15cm換算 施工実長 (L15) m	所要材料長 (WL) m	記 載 ページ	備 考
4	白	0.1995	1.33	1.59	126	1.0×0.5
5	"	0.2865	1.91	2.29	126	"
6	"	0.3375	2.25	2.70	126	"
7	"	0.2055	1.37	1.64	127	"
8	"	0.3630	2.42	2.90	127	"
9	"	0.3375	2.25	2.70	127	"
0	"	0.3420	2.28	2.73	128	"
	"	2.1840	14.56	17.40	129	4.0×1.2
↑	"	0.9375	6.25	7.50	130	5.0 m
└	"	0.99936	○ 6.66	7.90	131	"
└└	"	1.3260	δ 8.84	10.60	132	"
└└└	"	1.44859	9.65	11.50	133	"
↑	"	0.5625	3.75	4.50	134	3.0 m
↑	"	0.3750	2.50	3.00	135	2.0 m
↑	"	0.1620	1.08	1.30	136	1.0 m
←	"	0.5250	3.50	4.20	137	3.0 m
◇	"	2.47658	16.51	19.80	138	5.0×1.5
▽	"	2.6567	17.71	21.20	139	4.5×1.5
徐	"	1.13295	7.55	9.00	140	2.4×0.9
行	"	0.92695	6.17	7.40	141	"
止	"	0.8025	5.35	6.40	142	定 型
ま	"	1.1130	7.42	8.90	143	"
れ	"	1.037499	6.92	8.30	144	"
止	"	1.3380	8.92	10.70	145	拡大型
ま	"	1.5870	10.58	12.70	146	"

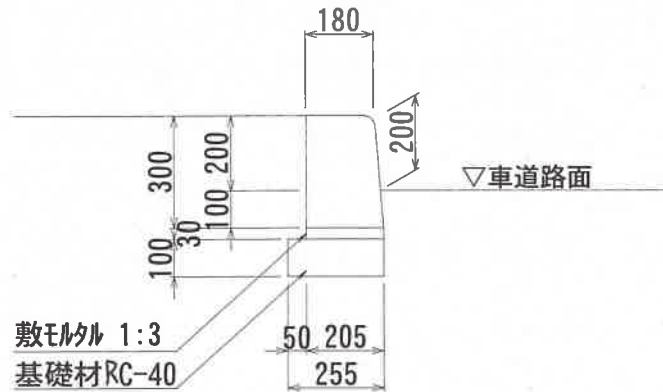
縁石工 数量調書

名称： Fb-20					単位： m	
測 点		左右	数 量	摘 要		
No. 3+	3.5 ~ No. 3+	5.9	左	2.4		
No. 3+	11.7 ~ No. 3+	13.3	左	1.6		
No. 3+	6.4 ~ No. 3+	8.2	右	2.1		
No. 3+	14.0 ~ No. 3+	16.7	右	2.7		
合 計				8.8		

縁石工 数量調書

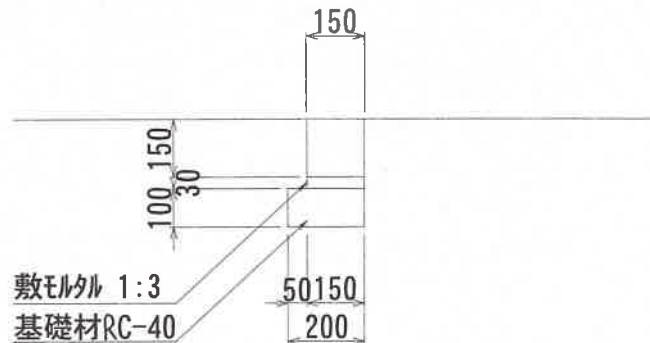
名称： 地先境界縁石 150×150					単位： m	
測 点		左右	数 量	摘 要		
No. 3+	2.3 ~ No. 3+	5.4	左	3.0		
No. 3+	11.2 ~ No. 3+	14.9	左	3.7		
No. 3+	5.6 ~ No. 3+	8.7	右	3.7		
No. 3+	14.5 ~ No. 4+	8.4	右	14.3		
合 計				24.7		

歩車道境界ブロックS=1:20 (Fb-20)



名称	規格寸法	算式	数量	単位
敷モルタル	1:3	$0.205 \times 0.03 \times 10.0$	0.06	m ³
基礎材	RC-40	0.255×10.0	2.55	m ²
歩車道境界 ブロック	Fb-20	$10.0 \div 0.6$	16.7	個
床掘り		道路土工に含む		
埋戻し		"		
残土処理		"		

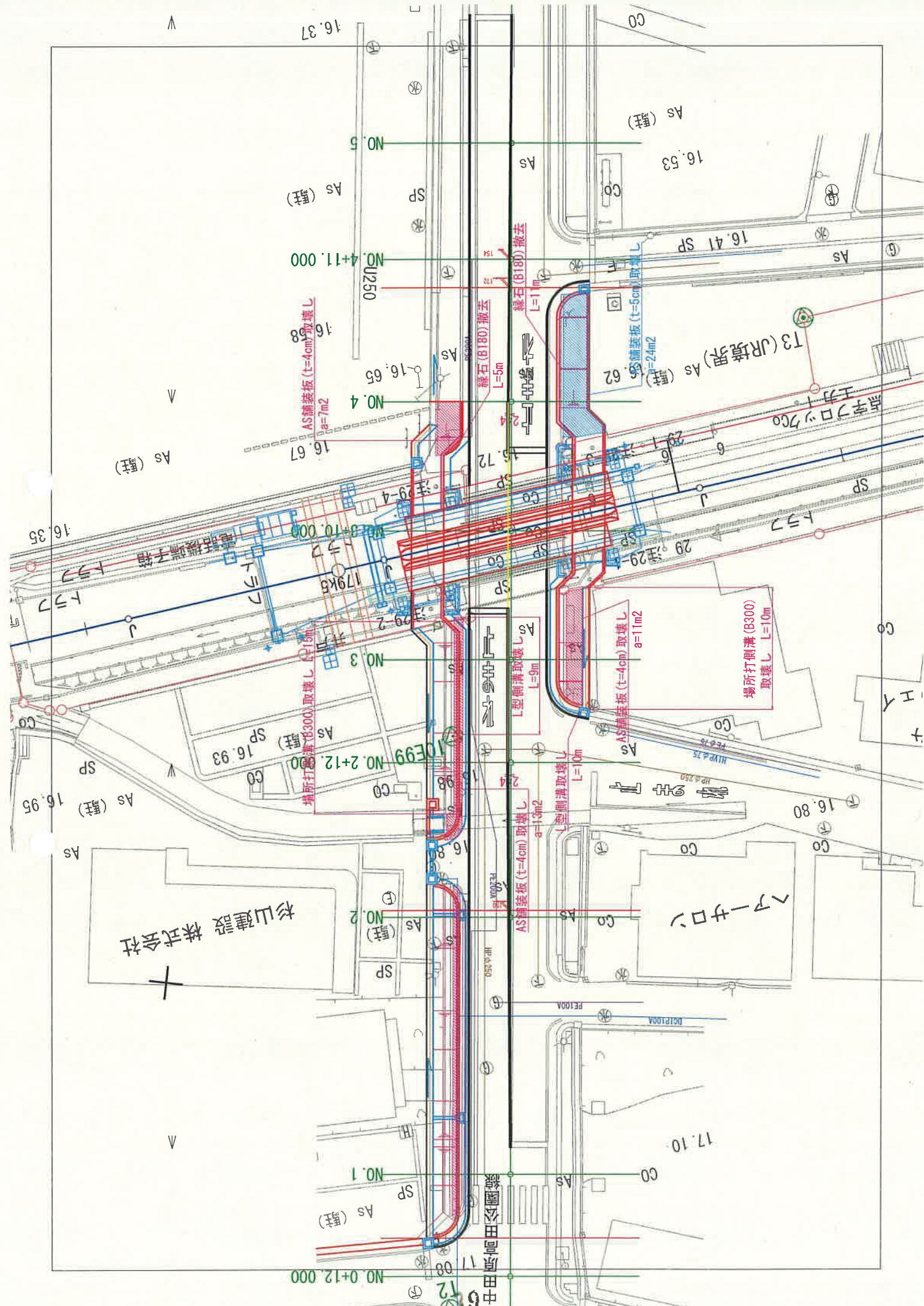
地先境界ブロック S=1:20
(150×150)



名称	規格寸法	算式	数量	単位
敷モルタル	1:3	$0.15 \times 0.03 \times 10.0$	0.05	m ³
基礎材	RC-40	0.20×10.0	2.00	m ²
地先境界ブロック	150×150	$10.0 \div 0.6$	16.7	個
床掘り		道路土工に含む		
埋戻し		"		
残土処理		"		

撤去工数量計算書

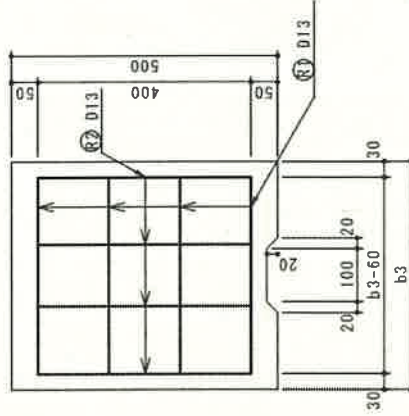
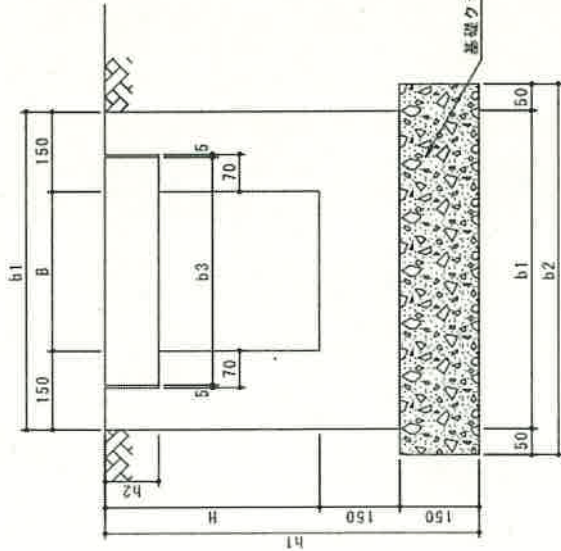
種 別	算 式	数 量	単位
舗装版取壊し			
	t=4cm 13 + 7 + 11	31 ✓	m ²
	t=5cm 24.0+9.8+43.2+6.0+57.5+70.0 (舗装工より)	210.5 ✓	m ²
舗装版切断			
	t=4cm NO.4+0.0(左) 歩道	2 ✓	m
	t=5cm NO.3+17.7~NO.4+8.5(右) = 11	77 ✓	m
	L型側溝 ΣL=50.8mより = 51		
	NO.3+0.0 現道 = 7		
	NO.4+0.0 現道 = 8		
	合計 = 77		
場所打側溝取壊し			
	B300 15 + 10=25.0m		
	1.96m ³ /10m×25m=4.9m ³	4.9 ✓	m ³
	4.9×2.35=11.52	11.5	t
	蓋 53kg/0.5m×25m=2,650kg	2.7	t
	2,650kg/2.35/1000=1.13m ³	1.1 ✓	m ³
L型側溝取壊し			
	B500 9 + 10	19 ✓	m
	194kg/0.6m×19m=6,143kg	6.1	t
	6,143/2.35/1000=2.61m ³	2.6 ✓	m ³
縁石撤去			
	B180 5 + 11	16 ✓	m
	68kg/0.6m×16m=1,813kg	1.8	t
	1,813/2.35/1000=0.77m ³	0.8 ✓	m ³



設計基準強度 側こう 側こうふた $\sigma_{ct}=1.8N/mm^2$
 $\sigma_{ct}=2.4N/mm^2$

C1

U2



現場打ちU型側溝 寸法および材料表

工種記号	寸法表 (単位:mm)		材料表 (10m当り)				同歩 (個)	摘要		
	b ₃	h ₂	コンクリート (m ³)	型枠 (m ²)	鉄筋 (kg)	蓋 (枚)				
C1-B300	430	100	0.021	0.186	4	370	4	400	3.065	53
C1-B400	530	100	0.026	0.206	4	470	4	400	3.463	66
C1-B500	630	100	0.031	0.226	4	570	4	400	3.861	78
C1-B600	730	100	0.036	0.246	4	670	4	400	4.259	91
C1-B700	830	100	0.041	0.266	4	770	4	400	4.657	103

【適用条件】

・歩道あるいはそれと同等以下の場所へ使用する場合。

【仕様】

- ・生コンクリートは(18-8-25)を標準とする。
- ・型枠面積は側壁先行し底盤を後施工する方法で計上している。
- ・端部型枠面積を必要とする場合は表内コンクリート数量の1/10の2倍(画面の時)を計上すれば良い。
- ・埋戻時はバタ角等による中梁をかますることが望ましい。
- ・目地材・止水板は必要に応じ計上。
- ・U2型に用いる蓋はC1型またはグレーチング蓋を標準とする。
- ・C1以外の蓋を用いる場合は、ふた掛け部の寸法の変更を行う必要があり、その際コンクリート量の修正、受け枠、アンカー等を別途計上しなければならない。
- ・C1蓋の製作方法は工場製作を基本とする。材料表の設計数量を計上し、生コンクリートは(24-8-25)とする。現場打ちをする場合は、鉄筋カブリを3cmとすること。また、裏表をまちがえて設置しないこと。
- ・C1蓋の鉄筋は使用本数のみ示してあるので、製作にあたっては、等間隔に並列配置すること。

【図面表示方法】

U2-B0 XHO L=0
 (幅) (深さ) (設計数量)

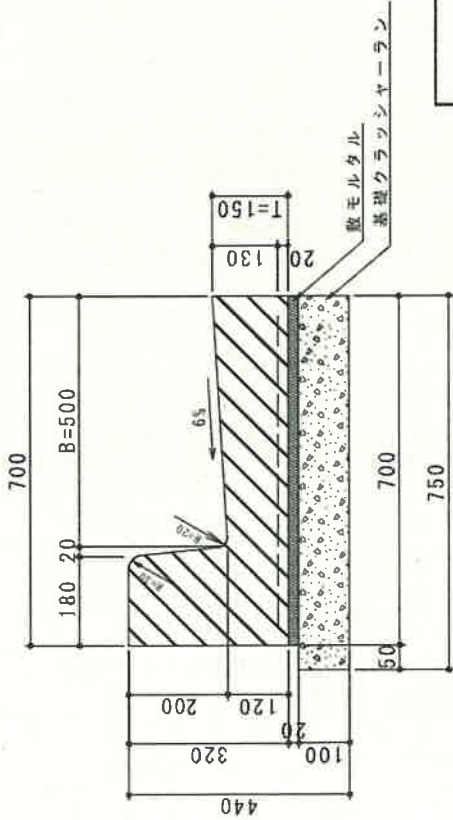
C1-O
 (幅) (設計枚数)

現場打ちU型側溝：蓋付き 寸法および材料表

工種記号	寸法表 (単位:mm)		材料表 (10m当り)				対応する蓋の種類	摘要	
	B	H	基礎クラ (m ³)	h ₁	h ₂	コンクリート (m ³)			型枠 (m ²)
U2-B300×H400	300	400	600	700	700	1.96	22.0	20	C1-B300
U2-B300×H500	300	500	600	700	800	2.26	26.0	20	
U2-B300×H600	300	600	600	700	900	2.56	30.0	20	C1-B400
U2-B400×H400	400	400	700	800	700	2.11	22.0	20	
U2-B400×H500	400	500	700	800	800	2.41	26.0	20	C1-B500
U2-B400×H600	400	600	700	800	900	2.71	30.0	20	
U2-B500×H500	500	500	800	900	800	2.56	26.0	20	C1-B600
U2-B500×H600	500	600	800	900	900	2.86	30.0	20	
U2-B500×H700	500	700	800	900	1000	3.16	34.0	20	C1-B700
U2-B600×H600	600	600	900	1000	900	3.01	30.0	20	
U2-B600×H700	600	700	900	1000	1000	3.31	34.0	20	
U2-B700×H700	700	700	1000	1100	1000	3.46	34.0	20	

設計基準強度 側こう $\sigma_{ck} = 24 \text{ N/mm}^2$

PL3



プレキャスト鉄筋コンクリートL型側溝 寸法および材料表

工種記号	寸法表 (単位mm)										材料表 (10m当り)			摘要
	B	H	b ₁	b ₂	b ₃	b ₄	h ₁	h ₂	L	基礎クラ (m ²)	敷モルタル (m ³)	側溝 (個)		
PL3-B500	500	200	700	180	20	750	320	440	600	7.5	0.14	16.5		

(注) B250A : ころ配10%一定
B250B : ころ配10%および5%

PL3型鉄筋および材料表 (1個当たり)

工種記号	(R1) 鉄筋材料表 (1個当り)			(R2) 鉄筋材料表 (1個当り)			材料表 (10m当り)			1個当 り質量 (kg)
	長さ (mm)	本数 (本)	質量 (kg)	鉄筋径 (mm)	長さ (mm)	本数 (本)	質量 (kg)	コクリート (m ³)	鉄筋 (kg)	
PL3-B500	D13 620	5	2.085	D10 520	5	1.456	0.08	4.54	194	

【 適用条件 】

【 仕 様 】

- 一般車面 (T-2.5相当) を考慮する場合で、以下の条件の場合。
 - 目地モルタル側溝の切断手間は据付歩掛の諸雑費に含まれる。
 - プレキャスト製品は上記仕様による。
- 拡幅計画等があり移設が考えられる場合。
- 高盛土等で不等沈下が予想される場合。
- その他、組合せL型側溝が不適当と考えられる場合。【 図面表示方法 】

PL3-B500

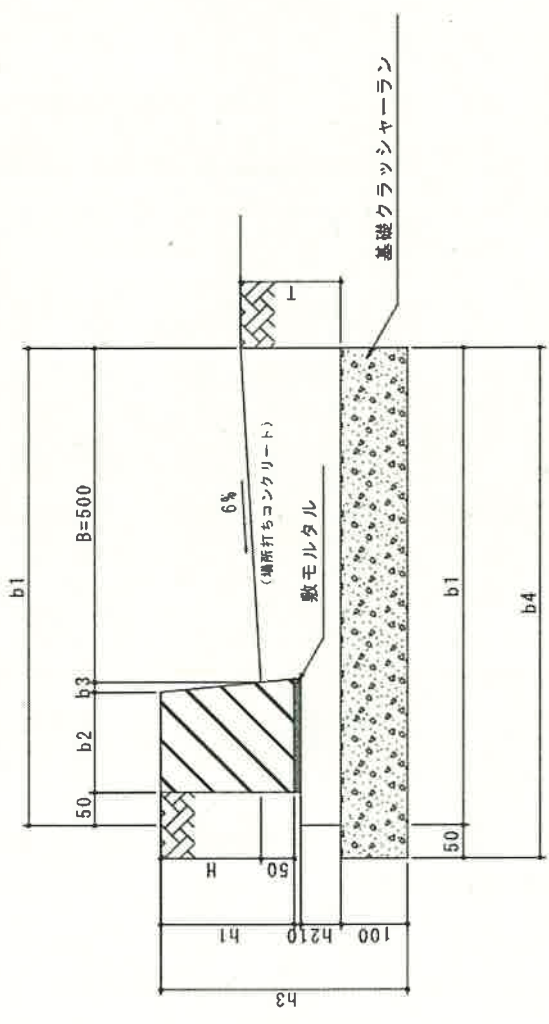
L=O
(設計延長)

設計基準強度 場所打コンクリート $\sigma_{ck} = 18 \text{ N/mm}^2$

プレキャスト組合せL型側溝

01-LS
PL4-B500XH()XT() -H1B

PL4



【適用条件】

- 一般車面 (T-25相当) を考慮する場合で歩道がマウントアップの場合。
- エプロン厚 (T) は下表により決定する。

舗装計画交通量 (台/日・方向)	エプロン厚 (T)
100 未満	150
100 以上 250 未満	150
250 以上 1000 未満	200
1000 以上 3000 未満	250
3000 以上	250

【仕様】

- 歩車道境界ブロックは JIS A5371 による。
- 現場打コンクリートは (18-8-25) とする。
- 端部型枠面積を必要とする場合はコンクリート量の 1/10 の 2 倍 (両端の場合) を計上すること。
- 路盤上に施工する場合はクラッシュヤーンを省略すること。
- 約 10m 間隔に目地を施工すること。
- 目地及び敷モルタルは諸経費に含まれる。

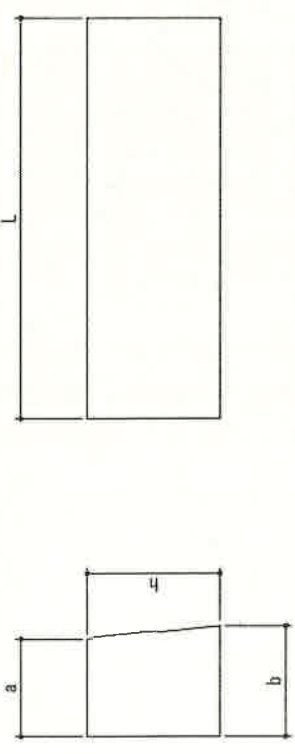
【図面表示方法】

- PL4-B500XHO XTO L=O
(高さ) (エプロン厚) (設計延長)
150 150
200 200
250 250

歩車道境界ブロック (JIS) 寸法表

歩車道境界 ブロック	寸法表 (単位mm)				1個当り 質量 (kg)		摘要
	a	b	h	L	A	B	
A	種	150	170	200	600	45	JIS
B	種	180	205	250	600	68	A5371
C	種	180	210	300	600	82	

歩車道境界ブロック (JIS)



組合せL型側溝：歩道がマウントアップの場合 寸法および材料表

工種記号	寸法表 (単位mm)											材料表 (10m当り)			摘要
	B	H	T	b1	b2	b3	b4	h1	h2	h3	h4	歩道クラ (mm)	コンクリート (mm)	型枠 (mm)	
PL4-B500 × H150 × T150	500	150	150	715	150	15	765	200	60	370	7.7	0.80	2.1	A16.5	歩車道境界
PL4-B500 × H150 × T200	500	150	200	715	150	15	765	200	110	420	7.7	1.16	3.1	A16.5	ブロック
PL4-B500 × H150 × T250	500	150	250	715	150	15	765	200	160	470	7.7	1.52	4.1	A16.5	(JIS)
PL4-B500 × H200 × T150	500	200	150	750	180	20	800	250	60	420	8.0	0.82	2.1	B16.5	を使用
PL4-B500 × H200 × T200	500	200	200	750	180	20	800	250	110	470	8.0	1.20	3.1	B16.5	
PL4-B500 × H200 × T250	500	200	250	750	180	20	800	250	160	520	8.0	1.57	4.1	B16.5	
PL4-B500 × H250 × T150	500	250	150	755	180	25	805	300	60	470	8.1	0.83	2.1	C16.5	
PL4-B500 × H250 × T200	500	250	200	755	180	25	805	300	110	520	8.1	1.20	3.1	C16.5	
PL4-B500 × H250 × T250	500	250	250	755	180	25	805	300	160	570	8.1	1.58	4.1	C16.5	

鉄道近接作業 数量計算書

工種名	種別	細別	作業量算定	日当作業量	設計数量	作業日数	備考
土工	掘削	土砂・小規模・標準		m ³	22.7 m ³	日	
	床掘	土砂・小規模		m ³	7.1 m ³	日	
	埋戻	小規模		m	4.3 m ³	日	
排水構造物工	L型側溝	C種・基礎碎石・均しCo		m	21.8 m	日	
	自由勾配側溝	1,000kg/個以下		m	11.6 m	日	
	暗渠排水管	直管・200～400		m	m	日	
	ボックスカルバート			m	m	日	
	現場打ち集水桝	人力・0.2以上0.36以下		箇所	箇所	日	
	現場打ち集水桝	人力・0.69以上1.03以下		箇所	箇所	日	
構造物撤去工	舗装版切断	As・15cm以下		m	42.0 m	日	
	舗装版破碎	小規模		m ²	124.0 m ²	日	
	構造物取壊し・運搬・処分	無筋・機械		m ³	3.7 m ³	日	
舗装工	下層路盤工	歩道		m ²	58.2 m ²	日	
	上層路盤工	歩道		m ²	58.2 m ²	日	
	不陸整正	車道		m ²	43.2 m ²	日	
	表層工	歩道・1.4m未満		m ²	101.4 m ²	日	
	フィルター層			m ²	62.7 m ²	日	
	路盤工	歩道		m ²	62.7 m ²	日	
	表層工	透水性As・1.4m以上		m ²	62.7 m ²	日	
	表層工	歩道・1.4m以上		m ²	m ²	日	
縁石工	歩車道境界ブロック	C種・基礎ケ		m	8.8 m	日	
	地先境界ブロック	各種600mm以下・50kg未満		m	15.9 m	日	
区画線工	区画線	ペイント実線・共用		m	30.6 m	日	
	区画線	熔融式・手動・実線45cm・共用		m	6.0 m	日	
	区画線	熔融式・手動・文字		m	10.7 m	日	
※鉄道近接作業施工時(No.3からNo.4の間の作業分を計上)							
	工事管理者				Σ =		4.5人日
	列車見張員						4.5人日
			44			4.50 × 2人	9.0人日